



JSQC ニュース

No.310

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-JSQC40周年記念シンポジウム
- 2-私の提言 こんな産学連携の架け橋もあるのでは？
- 2-ルポルタージュ 第354回関西事業所見学会
- 3-ルポルタージュ 第110回関西講演会/論文募集/事務局からのお知らせ/4月の入会者紹介
- 4-司馬正次氏受賞/選挙告示/行事案内/義援金報告

JSQC40周年記念シンポジウム グローバリゼーションを見据えたモノづくりと人づくり

40周年記念事業実行委員会委員長 椿 広計

1970年に創設された(社)日本品質管理学会は皆様のご尽力により本年40周年を迎えました。

第二次世界大戦での敗戦を契機に、我が国は産業立国の道を歩み、粗悪品の代名詞“安かろう悪かろう”の製品から、世界中の人々が尊敬する高品質製品を実現しました。その背景には、多くの先達の血のにじむような苦労があり、高品質実現のために産業界と学界とが連携し日本的品質管理を創生したのです。更にその理論と体系を追究するために設立された日本品質管理学会の意義を改めて考えなければなりません。この日本品質管理学会設立40周年を記念して「グローバリゼーションを見据えたモノづくり人づくり」と題した記念シンポジウムが開催されました。

当学会40周年を記念するシンポジウムは、去る5月27日に電気通信大学の講堂で開催されました。

基調講演者として、株式会社リコー代表取締役会長の桜井正光氏 (JSQC35年度会長) にご登壇頂きました。

東日本大震災で多くの国が日本を心配しているが、第二次世界大戦以降、日本はこのような災禍から立ち上がり再生を果たしてきたこと、今般の東日本大震災からの再生にはこれからの5年、10年をどう行動するかにかかっていることから中長期的なビジョンを持つべきとお話しされました。そのため



には、経済同友会代表幹事時代の桜井氏が行った2020年日本再生への提言「若者がやる気と希望のもてる国」を実現し、国際社会に貢献して、信頼される日本を目指そうと結ばれました。

続く特別講演1件目は「日中ビジネス体験談」として、中国から国費留学生で来日し、計算機科学や医学統計などを学んでいる中でイーピーエス株式会社を起業し、日中両国で活躍する厳浩社長が登壇されました。

データマネジメントセンターとして躍進し、日本国内での事業だけではなく中国では医薬品事業にも進出している同社は、日本の大学とも連携し、新薬やヘルスケア産業向けのサービスを、日本と中国だけでなく、東南アジア諸国でも発展に向けて取組んでいます。クライアント指向、ビジネス指向、人間指向を行動指針に掲げ、日本と中国に橋を架けたいと力強い抱負を語られました。

最後に、東京理科大学の狩野紀昭名誉教授 (JSQC30, 31年度会長) が登壇され「Japan vs Japanese」と題する特別講演が行われました。今直面し

ている危機は単なる経済危機ではなく、“国家の危機”であり、政治、社会、文化、技術、品質管理の危機であること、我々の課題は“危機”を“機会”に変えることと強調されました。

講演後、イーピーエスの厳社長、狩野名誉教授に、鈴木和幸JSQC会長、日立オートモティブシステムズ大沼邦彦社長 (JSQC38年度会長) を加え、中條武志中央大学教授の司会で本シンポジウムのテーマに関し、パネルディスカッションが行われました。

大沼社長には、グローバル化に向けて先生役の社員を派遣していた第一段階から、現地社員を日本に長期受入れを行った生産現場での実作業を通じて、モノづくりの考え方、人材育成の在り方などを具体的に紹介頂きました。

中條リーダーが整理された論点①グローバル化が進む中での現地国と日本の役割分担、②あるべき姿を実現する際の人・モノ・文化などのボトルネック、③日本の成長を支えた品質管理(TQM)のグローバル化での果たすべき役割、④そうしたことを実践する上で日本品質管理学会が果たすべきリーダーシップ、といった切り口で1時間半熱心に議論が展開されました。

今回の記念シンポジウムはこれからの日本の進むべき方向性を提起したものであり、学会中期計画に反映し、更に次期坂根会長に実現の途を切り開いて頂ければと感じました。

● 私の提言 ●

こんな産学連携の架け橋もあるのでは？

元 富士ゼロックス株式会社 立林 和夫



タグチメソッドやSQCを研究し、社内に普及するという仕事柄、こうした手法の研究に関して、学会誌の掲載論文や研究発表会での発表には強い関心をもってきました。しかし、かなり以前から、最近の研究は本質的な研究が少なく、重箱の隅をつつくような小さな研究が多いとも感じてきました。

R.A.フィッシャーの実験計画法、ネイマン&エゴン・ピアソンの生産者危険と消費者危険による抜き取り検査、田口玄一氏の線点図による交互作用の

割り付け、累積法、ロバスト設計などに代表される、画期的な研究成果は頻繁には生まれないことはよく承知しています。また、先輩たちが研究課題を食いつぶし、残された研究領域が狭まっている現状には同情の念も感じています。しかし、それでも品質管理学会の若手研究者から、一世代を拓くような研究成果が出てほしいと期待しているのです。

上に列挙したような研究課題は前記の人たちの天才的な能力から生まれたものではなく、現実問題で困っている企業人に応じたものでした。このことは、現場のニーズに触れ、現場の技術者とともに研究することの重要性を示しています。戦後間もなくの品質管理

の先人たちは、企業に入り込んでそこで解決すべき課題を見つけ、企業の技術者とともに解決方法を考えてきたと聞いています。しかし、最近の大学院生を見ると、企業に入り込んでそこで新しい手法を研究するという機会が減っているように感じます。

そこで私の提言ですが、企業の現場で困っていることを集約し、それを解決するための研究者を募る仕組みを日本品質管理学会の中に作ってはどうか。日本品質管理学会のホームページの相談室のようなQ&A方式ではなく、各企業から困っていることを募り、学会としてそれが新手法を必要とするものかどうかを整理し、若手の中から研究者を募集するという形を提案したいのです。

また、そうした現場からの課題提案を解決する研究成果には、優秀論文のひとつを授与するという仕組みを作ってはどうかとも思うのです。

とっぴな提案ですが、ぜひ一度検討していただきたいのです。

第354回関西 事業所見学会 ルポ

ジェイテクトにおける 品質管理の実践

平成23年5月18日(水)第354回事業所見学会が(株)ジェイテクト奈良工場にて、39名の参加で実施された。同社は、2006年に光洋精工(株)と豊田工機(株)が合併して設立されたトヨタグループの会社で、ステアリング・駆動部品・軸受・工作機械各事業を展開している。奈良工場は、1988年に世界初の電動式パワーステアリングを生産するなど、世界トップシェアを持つステアリング事業の主力工場である。

見学会は、会議室でステアリング事業・製品・技術並びに生産性向上活動JPS（ジェイテクトプロダクトシステム）の説明を受けた後、バスで敷地内工場へ移動、全員興味深く見学した。

JPSの3本柱として、可働率・直行率・やり終いが掲げられ、加工から組み立てまでの総合的ラインづくりであるフィッシュボーンプロジェクト活動が行われてい

る。精密な加工ラインが並ぶ5Sが行き届いた工場内では、具体的活動として、省機化・省工程・省人化が展開されていた。改善はモデルラインで実施、横展開されている。ラインを形成する個別工程には、その工程の役割・標準、改善成果等が整然と表示されていた。一例としては、短縮したライン長さが矢印で掲示されており、改善の見える化の工夫といえる。

工程見学する中で、各ポイントにおいて担当の方より改善事例説明が行われた。工場内には“モノづくり改革発信基地”という掲示があったが、台車改善の例では特許化するなど、からくり工夫が随所に盛り込まれており、密度の濃い改善現場という印象を受けた。

会議室に帰り、質疑応答が行われたが、活発であり参加者の関心の高さがうかがわれた。

最後に同社のTQM取り組みについて、スタッフの自工程完結など、製品品質とともに業務品質改善状況についても説明があった。高度な技術・品質、徹底した現場改善・業務改善が一体となった姿を見学することができ、参加者にとり大変有用な見学会となった。

北廣 和雄（積水化学工業(株)）

第110回関西 講演会 レポート

こだわりのものづくり ～京都の企業に学ぶ～

6月6日(月)中央電気倶楽部において第110回講演会が開催され、100名を超える参加者が熱心に聴講した。

月桂冠(株)専務取締役製造本部長の川戸章嗣氏とオムロン(株)グローバルプロセス革新本部生産プロセス革新センター長の石田勉氏に「京都企業のこだわりのものづくり」を熱く語っていただいた。

まず川戸章嗣氏から「月桂冠374年ものづくりへのこだわり」を、創業当時のお話から語られた。1637年徳川家光の時代に笠置の山奥から伏見の地へ赴き「ここの水が良い」と、大倉池のほとりにやってきたのが月桂冠の始まりである。この時代、冬の農閑期に酒造りに従事してもらえる仕組みをつくり、「玉泉」というお酒を売っていた。11代目の頃、海外の近代技術を積極的に導入し、防腐剤を使わず加熱処理で腐敗しない技術確立した。

船により江戸へ持ち込まれ有名になった灘の酒に対し、

明治以降、運賃の安い鉄道を使い、親しみやすいお酒として伏見の酒が全国に普及することとなった。

昭和35年頃、お酒に色が着いたり、変質するという品質低下を防ぎ、紫外線から守るための除菌、除湿技術の研究を重ね、良いお酒造りのプラントを独自に作り上げ、今日に至っている。

石田勉氏からは「オムロンの「ものづくり」へのこだわり」が、社憲を中心に、わかりやすく語られた。

1933年、立石電機として創業。電気式のレントゲン写真機が創業のきっかけであった。サイバネーションを使った自動制御（当時は、スイッチを使った制御が主流）は現在では当たり前となったが、電子制御の走りであった。この自動制御へのこだわりが、自動券売機、自動改札機のニーズへとつながった。

オムロンでは、皆さんの困りごとを取り上げ、それを実現していくというソーシャルニーズに応え、技術開発に取り組むという歴史があり、それが我々のこだわりであると強調された。また「品質第一は我々の基本。いついかなるときにも良いものを作っていく、コストはその次に考える。」と締め括られた。

今里 健一郎 (ケイ・イマジン)

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

2011年4月の入会者紹介

2011年4月22日の資格審査において、下記の通り正会員8名、準会員8名の入会が承認されました。

(正会員8名) ○加藤 真備 (東芝) ○鈴木 衛 (オンダ製作所) ○廣川 久夫 (富士電機) ○田淵 淳一 (パナソニック セミコンダクター ディスクリートデバイス) ○吉成 有香・中田 晴美・加藤 隆則・中野 修生 (日立製作所 ひたちなか総合病院)

(準会員8名) ○川上 博史・藤間 大典 (首都大学東京) ○齋藤 喜允 (中央大学) ○齊藤 仁・指田 大輔・遠藤 弘樹・中村 康人 (東京都市大学) ○近藤 康平 (東京理科大学)

正会員：2442名

準会員：78名

賛助会員：154社194口

公共会員：23口

事務局からのお知らせ

「QMS有効活用及び審査研究部会 第3期研究報告書」頒布のお知らせ

この度、標記の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申し込みください。

申込先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代：1冊(A4判258頁) 会員3,000円(税込み) 非会員4,000円(税込み)、QMS部会員は1冊目に限り1,500円。
送料：1冊340円(冊子小包)、2冊500円(宅配) 他多数の場合、事務局までご連絡ください。申し込みと同時に下記宛お振り込みください。

振込先：(社)日本品質管理学会
三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

司馬正次氏が瑞宝中綬賞を受章

本学会名誉会員で筑波大学名誉教授の司馬正次氏が、平成23年春の叙勲で学術交流功勞により標記の勲章を受章されました。

司馬氏は、品質管理を社会科学の領域からもとらえられ、組織変革のメカニズムの考究、米国、ハンガリー、インドなどの諸外国において普遍的に有効なTQMの普及・発展などに多大な貢献をされました。

益々のご活躍を祈念すると共に、心よりお祝いを申し上げます。

役員・代議員選挙告示

(社)日本品質監理学会第41～42年度
(2011年10月29日総会～2013年総会)
の役員・代議員選挙を次の日程で行います。

投票用紙発送：7月27日(水)～29日(金)

投票締切日：8月31日(水)

当日消印有効

開票日：9月14日(水)

行事案内

●第138回シンポジウム (関西)

テーマ：今、再び、日本品質・現場力を問う

日時：2011年8月23日(火)13:00～17:30

会場：中央電気倶楽部 5階ホール

参加費：会員3,000円 非会員 4,000円

準会員1,500円 一般学生2,000円

※当日払い

プログラム：

講演①「グローバル競争における日本品質と現場力」(仮題)

遠藤 功氏

(早稲田大学ビジネススクール)

講演②「グローバル市場で生き残る道～サムスン電子の事例から学ぶ～」

吉川良三氏 (東京大学)

パネル討論

申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

●第355回事業所見学会 (本部)

テーマ：今こそ、モノづくりの底力を。ロボットを活用した生産ライン

日時：2011年8月31日(水)13:00～16:00

見学先：日産自動車(株) 追浜工場

定員：30名

※同業他社のお申し込みはご遠慮ください。

参加費：会員2,500円 非会員 3,500円

準会員1,500円 一般学生2,000円

※当日払い

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第96回研究発表会 (中部)

日時：2011年8月31日(水)

研究発表会 12:30～17:50

懇親会 18:00～20:00

会場：名古屋工業大学

統一テーマ：「実践的Qの確保」の普及・拡大

参加費：会員4,000円 (締切後4,500円)

非会員6,000円 (締切後6,500円)

準会員2,000円・一般学生3,000円

[懇親会]

会員・非会員 3,000円

準会員・一般学生 2,000円

申込締切：8月24日(水)

定員になり次第締切

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。

●第19回ヤング・サマー・セミナー

日時：2011年9月3日(土)～4日(日)

会場：日本武道館研修センター(勝浦市)

定員：35名

参加資格：正会員・準会員

(原則として35歳以下)

参加費：無料 (交通費は自己負担)

申込締切：8月22日(月)

詳細：ホームページをご覧ください。

●第97回研究発表会 (関西)

日時：2011年9月16日(金)

会場：大阪大学中之島センター

10:00～17:00 (予定)

参加費：会員3,000円 非会員 4,000円

準会員1,500円・一般学生2,000円

※当日払い

詳細：ホームページをご覧ください。
<http://www-sys.ist.osaka-u.ac.jp/jsqc-kansai/index.htm>

申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。

●第76回クオリティパブ (本部)

テーマ：源流管理による信頼性・安全性の確保とトラブルの未然防止

ゲスト：鈴木和幸氏 (電気通信大学)

日時：2011年9月15日(木)18:00～20:30

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定員：30名

参加費：会員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第41回年次大会・名古屋工業大学 (本部) 発表募集中!

日時：2011年10月29日(土)

(1)申込期限

発表申込締切：8月24日(水)

予稿原稿締切：9月30日(金)必着

参加申込締切：10月19日(水)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

7月送付の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

同封の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

チャリティー・チュートリアル報告

このたびの東日本大震災により被災された方々に、心からお見舞い申し上げます。さる5月28日の第95回研究発表会において「チャリティー・チュートリアル」を開催いたしました。参加費や講演者への講演料などの合計268,000円を、日本赤十字社東日本大震災義援金として7月6日に寄付いたしました。ご協力ありがとうございました。微力ではありますが、被災された方々、地域の復興と発展に寄与できましたら幸いです。

寄付金内訳：参加費	200,000円 (正会員89名、準会員22名)
講師謝礼	72,000円 (18,000円×4名)
事務局経費	8,000円
会場使用料	-12,000円 (2時間分)

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org